



さぎの森小だより

あいさつ・元気・学び合い



No.5 令和7年8月25日

学校教育目標 心豊かな子 (徳) 体をきたえる子 (体) 学び合う子 (知)

実りの多い2学期に！！

校長 星野 和久

楽しい思い出がたくさんできた夏休みが終了し、みんな元気に2学期のスタートをきることができました。久しぶりに子どもたちの元気な笑顔があふれ、学校全体が生き生きとした感じがします。

また、友達と交わす子どもたちの笑顔には、夏休みを楽しく過ごした充実感と2学期への希望が感じられました。これも保護者の皆様が、夏休み期間中、子どもたちの健康管理や安全確保にご尽力いただいた結果だと、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、2学期は、たくさんの行事や活動がありますが、子どもたちには、「2学期はここをがんばろう。」というように、一人一人目標をしっかりとをもって、取り組んでほしいと思います。その目標をもとに、「気持ちを新たにすること」が、子どもたちの活力につながり、大きく成長するために大切なことであると思っています。2学期は、夏から秋そして初冬へと季節が移りゆく長い期間となります。子どもたちの「2学期への意気込み」を大切に、「できるようになった」「わかるようになった」等、心に響く教育活動が展開できるように、教職員が一丸となって取り組んでいく所存です。

子どもたちにとって、実りの多い2学期となりますように、引き続き保護者や地域の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

<子どものがんばりを支えるために>

子どもはどんな時ががんばり、人に優しくなれるのでしょうか。子どものがんばりと優しさを支えているのは「自分への信頼」にあるようです。つまり、自己肯定感です。そして、「自分への信頼」を最も支えているのは、保護者からの愛情によって育つ「保護者への信頼」です。さらに、学校では先生や友達から「私は周りの人から認められている。」と感じることがとても重要です。

このことは、家庭教育と学校教育が両輪となって、子どもを慈しみ育むことの重要性を示しているように思います。ご家庭や地域の皆様におかれましては、これまでと同様にご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

<笑顔の力>

笑顔は、気持ちを前向きにし、自分自身を元気にする効果があります。また、周りの人に喜びや安心感を与え、よりよい人間関係を築く潤滑油にもなります。学校、学級が笑顔あふれる場になれば、子どもたちが安心して学校生活を行うことができ、学習に集中できるようになります。そこで「思いやり算」という人を笑顔にする法則を紹介したいと思います。算数で学習する「+」「-」「×」「÷」に当てはめて、次のような内容となります。

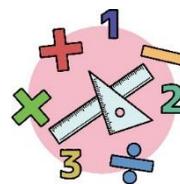
たす (+) … “たすけあう” ことによって、大きな力が発揮されます。

ひく (-) … “ひきうける” ことによって、喜びが生まれます。

かける (×) … “声をかける” ことによって、心がひとつになります。

わる (÷) … “いたわる” ことによって、笑顔が増えます。

笑顔の法則を日頃から心がけることで、より楽しく安心して学ぶことができる さぎの森小学校 にしたいと思います。



<職員の計報>

本校の給食配膳員 澤田 綾子 さんが、8月12日にご病気のためにご逝去されました。ここに、故人のご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。